Nara Women's University

平成18年度新設授業科目:研究マネジメント群:キャリア形成群:実施記録報告書[資料:研究プロジェクト演習:研究マネジメント群(博士後期課程)]

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 「魅力ある大学院教育イニシアティブ」 奈良女子大学大学院人間文化研究科 教育プログラム推進委員会 公開日: 2010-02-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小長谷, 有紀 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10935/1463

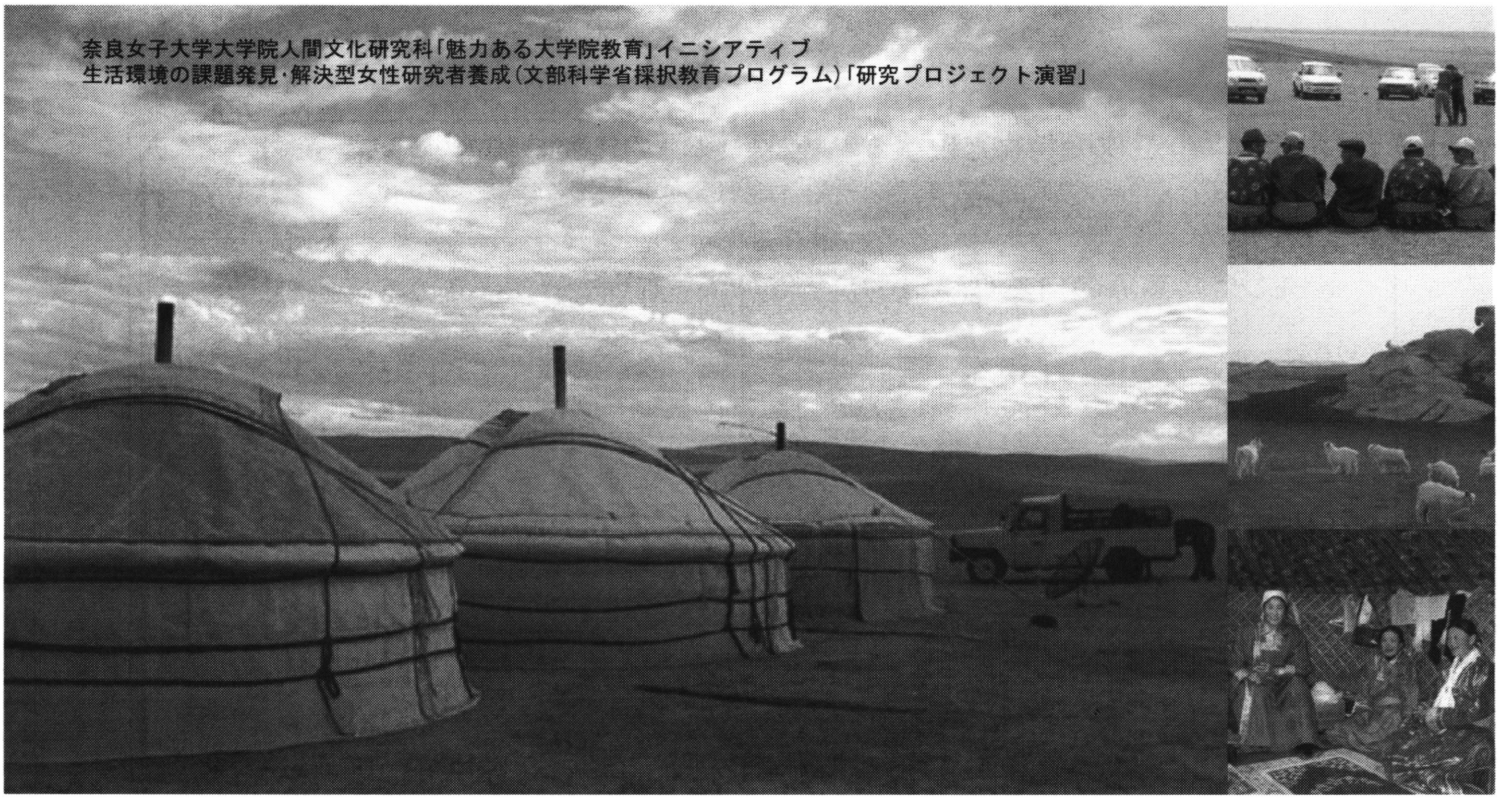
平成 18 年度　**新設授業科目**

研究マネジメント群・キャリア形成群

実施記録報告書

研究プロジェクト演習

研究マネジメント群（博士後期課程）



公開セミナー

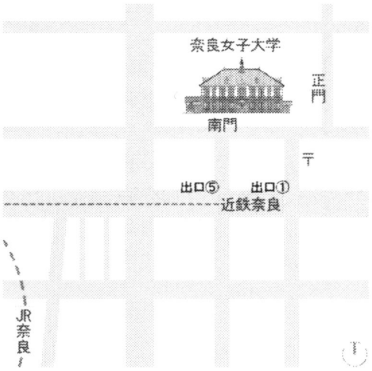
モンゴル民族の暮らし

「モンゴル遊牧の特徴と現状」

講師：小長谷有紀氏（国立民族学博物館教授）

「都市におけるモンゴル民族の暮らし」

ヤル（奈良女子大学大学院人間文化研究科D1）



2006年10月29日（日）14時～17時

奈良女子大学Ｆ棟５階会議室

（近鉄奈良駅下車 北へ徒歩５分）

◆参加無料、申込み不要

◆資料準備の都合上、事前に参加の連絡をいただけると助かります。

◆問い合わせ先：nara_wu_pj@yahoo.co.jp

企画：奈良女子大学大学院人間文化研究科社会生活環境学専攻「研究プロジェクト演習」受講生

モンゴル民族の暮らし
モンゴル遊牧の特徴と現状

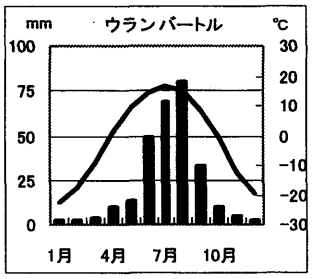
小長谷有紀(国立民族学博物館)
2006. 10. 29@奈良女子大学

モンゴル高原の自然環境

1)乾燥
年間降水量が少ない
年較差が大きい

2)寒冷
年間平均気温が零下になる
越冬が決め手となる

首都ウランバートルの気温と降水量



モンゴル高原の社会環境

1)オアシス社会の不在
自然堤防の後背湿地を使った小規模な農耕はおこなわれていた

2)市場の不在
贅沢品との交換をおこなう隊商貿易はおこなわれていた

牧畜経営の3つのタイプ

地域	家畜の性別	商品化率	経営戦略
アフリカ	ほとんどメス	自給的	生存経済
西アジア	主としてメス	商品化	商品経済
モンゴル	メスと 去勢オス	自給的	軍事経済

草原は軍需工場である

1)メス家畜を育てる
生存経済を維持するための資源

2)去勢オス家畜を育てる
軍事行動を実施するための資源

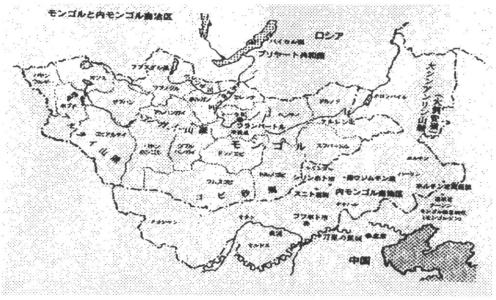
(ただし19世紀まで)

家畜の平和利用の時代

20世紀から
近代化=社会主義化

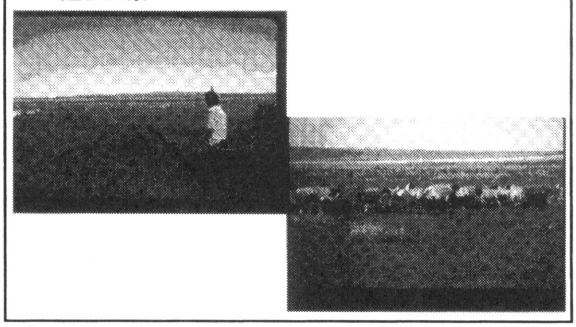
1)去勢オス家畜の商品化
2)去勢オス家畜からの畜産物の商品化
3)メス家畜からの畜産物の商品化

モンゴル高原



モンゴル国

・遊牧風景



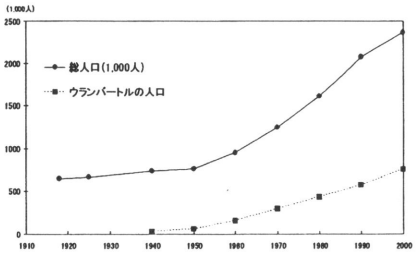
モンゴル国と中国内蒙古自治区

◆1911年の辛亥革命
　→清朝支配（中国）からの離脱
◆現在のウランバートルを中心に1921年人民革命
◆1924年にモンゴル人民共和国成立
　→ソ連に次ぐ世界で2番目の社会主義国となる
◆1947年に中国内蒙古自治区成立

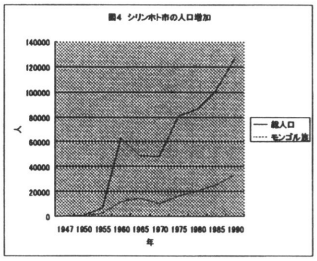
◆1992年にモンゴル人民共和国からモンゴル国へ

人口の増加・都市人口の増加（モンゴル国の場合）

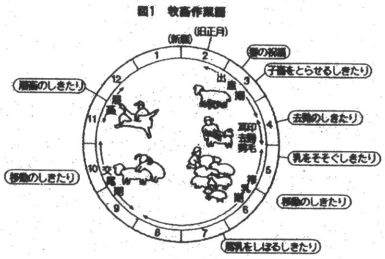
図1 モンゴル国の人口



シリンホト市の人口増加



牧畜暦

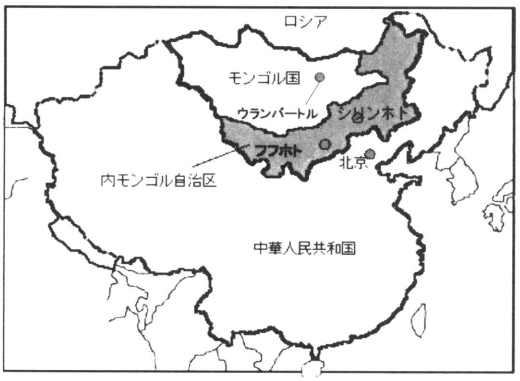


都市におけるモンゴル民族の暮らし

－中国・内モンゴル呼和浩特（フフホト）市を中心に－

奈良女子大学大学院　人間文化研究科
社会生活環境学専攻　博士後期課程　1回生
ヤル　2006.10.29

地理位置



モンゴル国・中国内モンゴル自治区の概要

	面積（km²）	人口（人）	成立日
モンゴル国	156万5,000	253万3,100 モンゴル人（95%） 及びカザフ人等居住	1924年 首都：ウランバートル
内モンゴル自治区	118万3,000	2384万3,500 モンゴル民族：402万9,200 その他、漢、回、満、朝鮮等49民族が居住	1947年 区都：フフホト

注　モンゴル国の人口「2004年統計年鑑」
内モンゴル自治区の人口「第5次人口普査公報」2005

成立経緯—モンゴル国

1911年	辛亥革命、中国（清朝）より分離、自治政府を樹立
1919年	自治を撤廃し中国軍閥の支配下に入る
1921年	活仏を元首とする君主制人民政府成立（モンゴル革命）
1924年	活仏（カツブツ）の死去に伴い人民共和国を宣言
1990年3月	複数政党制を採用
1990年9月	大統領制に移行、初代大統領にP.オチルバトを選出
1992年	モンゴル国憲法施行（1月13日採択） 国名変更（モンゴル人民共和国→モンゴル国）

成立経緯—中国・内モンゴル自治区

辛亥革命後	チャハル部出身の徳王が独立運動を行う
1939年	張家口で蒙疆連合自治政府を成立
1947年	内モンゴル自治区成立

呼和浩特（フフホト）市の概要

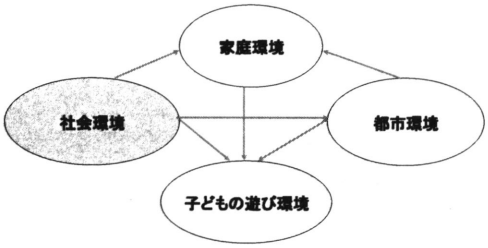
中国・内モンゴル自治区の区都で、
政治、経済、文化の中心である
中国の北部に位置し、北京との距離670km

面積：1万7224km²　人口：243.79万人
モンゴル(11%)、漢、回、満、鄂伦春等34
民族が居住している

子どもの教育環境

- ❒幼稚園からモンゴル族幼稚園と普通(中国語)の幼稚園を自由に選択できる
- ❒義務教育は9年であり、高校は3年、大学は4年（専科大学を除く）である

子どもの遊び環境



家庭環境

1979年から「１人っ子政策」が実施された

↓

中国の人口抑制に一定の効果をもたらした

家族構成が変化し、核家族が増加した

都市環境

急速な都市化

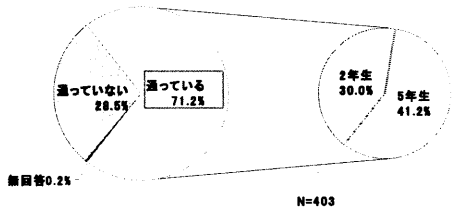
↓

市民の居住形態が変化した
平屋から「楼房」への建て替えの促進、
新興住宅区における物業管理方式の
導入等である

社会環境

- ❒学歴偏重社会によって教育熱が高まり、塾や習いごとに通う子どもが多数である
- ❒テレビやコンピューターゲームなど室内遊びへの傾倒が見られる

子どもの塾・習いごと



注 2005年呼和浩特（フフホト）市の小学校2校に対するアンケート調査より

子どものよくする遊び

順位	全体	2年生	5年生
1	鬼ごっこ	追っかけ	テレビ
2	追っかけ	鬼ごっこ	鬼ごっこ
3	テレビ	テレビ	追っかけ

N = 403

注 2005年呼和浩特（フフホト）市の小学校2校に対するアンケート調査より
（全16種類のうち上位3位まで取り上げている）

若者

❒大学生
居住形態：学生寮
学費等：親から

❒社会人
居住形態：ほぼ親と同居（結婚前）
職業：行政、第三産業、自営業等

大学

多数の大学は、呼和浩特（フフホト）市に集中している

内モンゴル大学（国の重点大学の1つである）
内モンゴル師範大学、内モンゴル農業大学、
内モンゴル工業大学、内モンゴル財経学院等

大学名	在学人数（人）	大学院生（人）
内蒙古大学	13,879	1,744
内蒙古師範大学	19,817	815
内蒙古農業大学	19,582	1,113
内蒙古工業大学	19,253	681
内蒙古医学院	5,852	460
内蒙古財経学院	8,303	——

出典「内蒙古統計年鑑 2005」

退職後の生活

❒孫の面倒を見る人が多数である

❒新しい仕事への展開

❒コミュニケーションのスタイル
トランプ、将棋、カード遊び、おしゃべり等

小長谷先生講演内容

■イントロダクション

1979　モンゴル国に留学

1986　フフホトに留学

先生が留学されていたときと大分違う。同じまちだと思えないほどの変化。

フフホト：この1年間の地価の上昇が全国で一番（3倍）

オリンピックのときには、北京の飛行場にすべてが降りられないので、知らないうちにフフホトに飛行機が降り立つ。近年の中国の発展を表している場所。

子どもの遊びについて

一人っ子政策･･･子どもが親に怒られたとき･･･「自殺してやる」と親をおどす。

自分がいなくなる＝跡継ぎがいなくなる

日本の一人っ子とは違う

一人っ子政策は子どもの環境や遊びを考えるうえで大切な問題。

それがもたらす人間的なひずみをどのように環境面で改善していけるかは中国として取り組まなければいかなければならない課題。

要望が多い。てんこ盛り。貪欲なご要望でした。

要望を念頭におきながら、モンゴルと関わってきた根本のところを話します。

行ってみてもすぐには分からないこと・・・歴史的変遷・空間的変遷

経験主義だけでは分からない背後にあるものを伝えることができればよいと思います。

■　モンゴル高原の自然環境

基本　乾燥と寒冷

首都ウランバートル（フフホトよりも1000KMくらい北・標高も高い）の気候と降水量

日本では1日分の雨が1年の一番降るときの降水量（80mm程度）

気温　1月は−20度　暖かいときでも20度を下回っている。

表にはあらわれない重要なポイントは・・・

★　年較差が大きい

年による変化が大きい⇒平均的にあてにはできない。あてにできないならば⇒降ったところに動けばいい

■　モンゴル高原の社会環境

新疆等の乾燥地域にみられるようなオアシスはモンゴル高原にはない。

オアシス社会の不在＝市場がない

贅沢品との交換を行う隊商貿易は行われていたが、日々の生活に使用するものを交換することはしなかった。

何キロ先に行っても同じことをしている。

恒常的なマーケットがない

■牧畜経営のタイプ
アフリカ・西アジア・モンゴルでおおざっぱにわけると・・・
アフリカ・西アジアではほとんどメスを飼う（almost female）

アフリカ：ぎりぎり自分達が生存できるためのメスを残す
西アジア：オスは市場に出す（ヨーロッパの料理に使われる）≒商品経済

モンゴルでは、半分オスを残す
食べきれないほどのオスを残している
その数を飼えるだけの草原が残っている。売る相手がいない。
≒軍事経済　軍事行動を実施するための資源

■　草原は軍需工場である
○メス家畜は自分達が生きていくために必要なリサイクルプロデュースのための資源
○去勢オスは生きていくためには必要ない
　19 世紀まで
　　＝馬・駱駝／生の軍事兵器
　　羊／歩く冷蔵庫･･･軍事食料
　20 世紀から
　　化石燃料の発達
　　⇒家畜の平和利用の時代

近代化≒社会主義化
牧畜に焦点をあてると・・・
1）去勢オスは食べるものとして商品化される
2）去勢オスからの畜産物（毛織物等）の商品化
　モンゴルには考古学的に毛織物はなかった。近年 50 年ほどで発達したもの。フェルトは織物ではない。拾った毛を使っていた。社会主義時代に毛を刈る運動を広げた。
3）メス家畜の商品化＝酪農業

■　モンゴル国と中国内蒙古自治区
1911 年～　の歴史は制度面では誰が書いても同じ
研究としてみると 100 年さかのぼるべき
今日の人口密度が 10 倍違うという差は 17･18C～　生まれた。
清朝との関係（内蒙古は直属。モンゴル国は外蒙古とされた）
なぜ違いが出たか『アジア読本（河出書房新社）』

■　人口増加（モンゴル国）
革命後
全人口が大阪市程度（その半分は首都に集中）60 万⇒240 万人へ

日本の4倍の土地に大阪市の半分ほどの人口がいる。人の10倍の家畜がいる
→その条件で合理的な空間利用をしている

■ シリンホト市の人口増加

モンゴル族の人口が自然増するよりも、全体の人口が圧倒的に増えている。
モンゴル族の約十倍の人口＝他者が流入してきた。
定着的な牧畜→移動して環境対応できない→降水量の年較差に対応できない。
負荷がかかる→過放牧（家畜が悪いというより人口圧が原因）
強制移住政策に対して、どれだけオルタナティブを示せるか＝移住しなくても、伝統的な生活をアレンジしながら、文化・生活・経済をどれだけ守っていけるかという研究をしている。

現場がかわってきたので環境問題を扱っているが、元々は、人間と動物との関わり方を研究していた。

■ 牧畜暦

① シリンゴルの夏
羊：ヤギ　当時はヤギが25パーセント程度というのが一般的だった。
先頭を行く性格がある。羊がヤギについていく。
ヤギを使って人に都合のよい牧畜経営ができる。

② 定着していても遊牧的
どんなに天候が悪くても放牧に出す
4月末の雪の日の写真
※ 写真はシャッターが電気で動くものだと動かなくなる･･･伝統的な物理的な仕掛けであるといい（ライカ等）

③ 馬に乗って放牧するのが特徴
馬に乗らないと、一日ついていかなければならない。雇われ牧夫が生まれる。経済格差が広がる。
馬に乗った人は、情報収集に行くのが任務。
夕方になれば放牧へ戻ってくる。

④ 馬の群れ
種付け（去勢していない）オスは人の手を介入しないので、身なりがすぐわかる
◎ワンメールユニット（one male unit）
近親交配を避ける。種付けオスが率いるユニットをつくる。
去勢オスは別のユニットでも維持できるが、大変なので、ワンメールユニットの中に入れている。＝オス自体は、群れの中に何頭もいる。
自分が乗っている馬が疲れたら放牧中の馬と交換する。

騎馬遊牧民は一頭一頭可愛がるわけではなく、群れとしてキープしている。

⑤ 放牧風景

春。フレーフレー　ホーライホーライと福を招く儀式があった。

渡り鳥が帰ってくるころに福をつれてきて子羊が生まれるシーズンになる

⑥ 夜に生まれた子畜

⑦ 夜に生まれた子羊を両脇にかかえて、親羊が子どもについてくるようにする。

⑧ 残らない母羊もいる。人間が介入する（子どもをみせて群れから引き離す作業）

⑨ けとばす母羊もいる

⑩ 双子の子羊の一方しか面倒をみない母羊

足かせをつける。母羊の毛で紐をつくる→

⑪ 足かせをつけられた羊

トゥーイクトゥーイク　という歌をうたう

ヤギ：チャイクチャイク　馬だと・・・・　　牛だと・・・駱駝は・・・

駱駝：駱駝には馬頭琴を聞かせると涙をながす。「らくだの涙」：映画が何本もある。

最近では、アカデミー賞でも賞をとったものがある。最近、世界的にも注目されている。ごく普通に皆がやっていること。

女性に限らず男性もやる。

地域差のバリエーションがある。

人によっても違う。

・　・・誰か調べて欲しい

⑫ 母羊が放牧中に産み落としてきた子羊の応急措置（本当の母羊は捨ててきたような母であるので、使えない。お乳がたっぷり出る羊の乳を飲ませる）

⑬ ゲルのハナとオニを分けて使うことができる（結果的に母を失った子羊を保育園のように囲って育てる）

⑭ タビョール

置き子（両親は町で働いている）　親戚に預けられた子ども

一般的で、皆普通に育てている。

生アイボのようなかわいいペットに囲まれて育つ

子羊のおしりのところをこしょこしょすると乳がよく出ると教えているところ

実際に母羊が子羊に乳をやるときの状況を踏まえている。

動物行動学者のように観察した結果を教えている

⑮ 人間慣れすると群れから離れてしまう

⑯ 普通家畜は追うことはできないけれど、呼ぶことはできない

餌付けすると呼ぶことができる。

ヨーロッパでは餌付けで群れのコントロールをするが、モンゴルではあまりやらない

※　論文を読んでください（学生は実際にそうか論文で確かめてください）

群れから離れた子羊が狐やカラスの害に遭うことが多い。

最初は餌付けをするが、その後、乳母にまかせるようにする。

⑰ 乳母（母親が子羊のにおいを嗅がないようにしている）

⑱ 乳母（自分の子どものにおいを嗅がされ、その間に違う子羊が乳を飲んでいる）
⑲ 乳母（ヤギに母親のいなくなった羊に乳をやっている）
搾乳の起源
狩猟・・・動物を殺す行為
搾乳・・・殺さずにすむ。人間と動物との画期的な関係変化
考古学的には難しいので、今現在その行為をしている人々から読み取る
子育てすることと、搾乳とは密接な関係がある。
（乳を別の子どもにやる・・・子どもではなく人間がいただくと搾乳になる）

搾乳がないところ・・・・子育てをしない家畜が多い

⑳ 乳母の最終段階
普通にしていると、どの母の乳も飲んでしまう子羊がでてきてしまう。
養子縁組
子どもを失った母羊と母を失った子羊
柄が似ているものを組み合わせる
子羊に死んでしまった羊の毛をかぶせてにおいをうつしている
人間が歌って養子縁組を完成させる（歌わなくてもいいのだが、念入りであるからこそ文化？？

21 ・22 メスかオスかは関係ない
よく面倒みている人間だが、オスかメスは知らないという。・・・オスでもメスでも育てるのでこだわらない
生後３ヶ月で去勢する。そのときにはじめてわかる
去勢されなかったオス・・・貞操帯：呼び名をかえるべき？
交尾を調整するためのもの
モンゴル語では音楽（調節）の言葉といっしょ

23～25 去勢の作業
普通は女性は食べないけれど、自分は異邦人なので食べる。異邦人であることのメリット
26 去勢するのは・・・群れが分裂しないため
自然に淘汰される分裂ではなく、人工的に介入する。
儀礼のときにつかうもの・・・バガナ：天窓をささえる柱（抜いても倒れない）
ゲルは元祖ドームなので、全体の構造物としてバランスをとっているので、柱がなくても建っている
内モンゴルでは抜いている場合が多い。
定住していて、バガナを使うときがないのにバガナを持っている
27. 去勢しないものを選んでいる（種つけオスの選定）
28. 耳を切る

29. イアマーク（自分たちは顔で認知しているが、他人のために記しをつける）
30. 去勢作業
29. 睾丸
30. 睾丸の料理（たまたま食べられるもの）
31. バガナ
32 馬の去勢作業
33 馬のものは焼いてたべる
34. 乗馬
35 牛に荷物を引いてもらう
36. 役畜利用・・・去勢されたもの
37. 毛を取る
38. カシミア
39. 毛をすくもの

34～39 去勢することにより（去勢オスを残すことにより）家畜の役畜利用が発達した

横一列に並ぶ：モンゴル民族の身体空間感覚？
昔は田舎から出てきたおじいさんたちは、狭い道でも横並びに歩いていた。
鞍ならべる・・・友達でいる

結婚式・・・ゲームをする（戦闘の代わり）集団と集団の関係を結ぶもの。血を流さずに戦闘をすること。演技性が高い。

■搾乳　ギアーズ　インボルーション

きれいに並べている（紐をつかっている）
一番おとなしい羊が最初に繋がれて、最後にはなされる。（どの羊がどんな性格か把握している）
昔は、子羊をつないで、母羊がきたところを搾乳していた。
特に馬で顕著

雨乞いの祭り（オボー）・・・いつも雨が降る／雨の降る時期にする。

絞ったミルクはどうするか・・・
乳酸菌をよく働かせる桶（保温効果を高めるため布をおおったりする→ヨーグルト）
（冷却型もあり、馬乳酒をつくる）

ウジュムチンでの正月風景
羊を生きていたときの順番にお皿に盛る。

羊を解体するとき
昔は、「殺した」と言わず「死んだ」ことにする
・のどに草がつまって死んだ
・草を握ってナイフをいれる・・・草を切っている

「死」自体は悪いことではない。「死」があって「生」が生まれる。
固体の死を別の固体の生へ転換する儀礼をしてきた
死の宣言（殺したわけではないという）
死を動物のリサイクルプロデュースに埋め込んできた

■バガナの意味するもの

去勢されるもの・・・リサイクルプロデュースから外れている
バガナをまたぐ儀礼をする→家畜となる
ドーム（家）の象徴であるバガナを使う
＝結婚式でも儀礼として使う
※家畜の「家」＝ドメスティケーション

シュールな言葉遊びで拒否の儀礼をする⇔バガナをまたいで家に通す承諾の儀礼
バガナ：家の結界として使う。またぐと、その家の構成メンバーとして認められる

バガナは構造物として使わなくても、象徴的に維持している。

モンゴルに行くときや、色々な研究の参考にしてください。

公開セミナー「モンゴル民族の暮らし」

2006年10月29日(日)14：00～17：00

大学院人間文化研究科F棟5階会議室　（来場者33名）

来場者アンケート結果(回答数24)

1．属性

1）所属：学内　14（58.3%）
　　学外　10（41.7%）

2）職業：学生　12（50%）　[学部生：6　大学院生：5　不明：1]
　　教員　1（4.2%）
　　職員　0
　　その他　9（37.5%）

4．セミナーの内容について(自由記述)

■ 小長谷先生の講演は現地で暮らした、研究にもとづいたお話であり、たいへん興味深い内容だった。動物と人との関係の中に様々な知恵・文化がつまっていたことは、おどろきだった。(NO.1)

■ 国立民族学博物館の小長谷先生のお話は、モンゴル民族のくらしについてその営み、背景となる文化・考え方などとともに話していただきとてもとても興味深かったです。家畜との関係によりこんなにいろんなことが見えてくるのだと思いました。ヤルさんのお話も、今の内モンゴルの人の生活の様子がわかってよかったです！(NO.2)

■ よかった。(NO.3)

■ とてもわかりやすくておもしろかった。モンゴルと内モンゴルをくらべながら、詳しいことまで教えてくれて感心しました。(NO.4)

■ モンゴルに関する興味深い内容でとてもよかったです。表面からだけでは見えないその背景理由を分かりやすくお話して頂けてとても勉強になりました。(NO.6)

■ モンゴル民族の生活の様子が多くの写真で説明され分かりやすく、楽しく、とても充実したものでした。(NO.7)

■ 15時すぎからの途中参加ですが、旅行でしか知らないことが多くゲル生活の家畜模様が良く判りました。(NO.8)

■ モンゴル民族についての全般的な暮らしはもとより、時間軸的、また、外モンゴル、内モンゴルによる異なる点についてお話をうかがえたことは非常に興味深いものでした。(NO.11)

■ (小長谷先生の講演から聴講しました)搾乳の歴史など、非常に興味深かったです。スライドから内モンゴルの雰囲気がすごく伝わって、楽しく聴講することができました。(NO.12)

■ おもしろかったです。私もモンゴルに行ってみたいけど、あの料理はちょっと... 食べられないです。(NO.13)

■ モンゴルという国に関心を持っていたので、本日のセミナーで、かなり多くの事を学ぶことが出来ました。(NO.17)

■ モンゴル民族の暮らし方、子育てにいたるまで、くわしく教えていただき、よくわかりました。学生さん達による、このような講演を、どんどんしてほしいです。又、ぜひ参加したいと思います。ありがとうございました。 (NO.18)

■ 大変興味深く聞けて良かった。(NO.20)

■ 非常によかった(NO.21)

■ モンゴル民族は日本人に非常に似た顔立ちで、以前から親しみと興味を持っていた。本日のセミナーでモンゴルがより一層、関心のある場所になった。小長谷先生のファンになりました。(とても楽しいお話で。)(NO.22)

■ たくさんの写真、興味深く拝見させて頂きました。家畜の母子関係への人の介入が case by case でいろいろある事に動物と共に暮して来た人々の奥深さを感じました。日本のホルスタイン※は親の父をほとんど飲む事が無くイキナリ哺乳びんです。(※ホルスタインは人のために異常に乳を出すべく改良された牛の怪物なので身体的にもかなり無理がかかっているようです)内モンゴルの都市で塾や習いごとに行っている子供の割合の多さに驚きました。やはり受験のためですか？ウランバートルでも同じなのでしょうか？余談ですが、モンゴルの遊牧民には子供の動物を殺す習慣は無いと言う話を聞いて_娘の話ですが、モンゴルからの留学生の方がちりめんじゃこを見て「日本人はこんなにたくさんの小魚を殺して魚が絶滅しないか」と心配されたそうです。(NO.23)

5. セミナー評価

構　　成：良かった　19 (79.2%)
　　普通　　2 (8.3%)
　　改善すべき　0

■ 単に外から講師を呼んでくるというのみではなく、学生からの話題提供が入っているのがスバラシイです。(良かった／NO.2)

時間配分：良かった　16 (66.7%)
　　普通　　5 (20.8%)
　　改善すべき　0

■ 学生の発表・質疑・休憩・講演・質疑という順番が一般的だと思います。(普通／NO.10)

会の進行：良かった　19 (79.2%)
　　普通　　2 (8.3%)
　　改善すべき　0

■ 門を入ってから部屋にたどり着くまでの誘導がとてもていねいで嬉しかったです。(良かった／NO.23)

6．セミナー評価

今後の参加希望：積極的に参加したい　9（37.5%）
参加したい　13（54.2%）
参加予定はない　0

■ 同じ国について何回かのシリーズでもよいし、他の国のすまいやくらし方で今回のような企画でも楽しそうな気がします。（参加したい／NO.2）
■ 砂漠化（積極的に参加したい／NO.15）
■ 南米の国、ウルグアイについて日本では全くといってよい程知られていない。この国について知りたい。（積極的に参加したい／NO.17）
■ あちこちから留学生の方がいらしているので、各国の生の姿を報告して頂きたいです。外モンゴルの方がおられたら。その方にもぜひ。（積極的に参加したい／NO.23）

7．セミナーについて（自由記述）

■ 学生の発表と講演者の話をくみあわせてよい企画だったと思います。ここにくるまでの⇒の案内は大変助かりました。もっと宣伝したらたくさんの方がこられる内容だったような気がします（NO.1）
■ とても興味深い内容で構成されてよかったと思います。くらし、生活はそこに住んでいたり長い間密着して研究している方から聞くお話は本当に外からみているだけではない深さがあって新しいことがたくさん知れてよいキカイとなりました。（NO.2）
■ 一般の方がたくさんいらしているのがすごい。その分、学生の参加が少ないのが残念だった。はじまりの音楽、写真などとてもよかった。会場がとてもわかりにくい場所にもかかわらず、適切かつポイントをおさえた案内だった。（NO.3）
■ 観光旅行で知る草原の景色しか知らない自分にとっては遊牧民の生活話（家畜との営み）は興味が出てきました。一般を含めてのセミナー形式に参加して勉強になりました。次回も企画して下さい。（NO.8）
■ 水の疑問がとけました！ありがとうございます。（NO.10）
■ 学生企画という点で、学生（留学生）のお話をお聴きできたことが、調査結果に基づいた最新の生活環境を知ることができ、新鮮に感じました。とてもわかりやすかったです。（NO.11）
■ とても成功したと思う。これからこんなチャンスたくさんつくって下さい。（NO.15）
■ 大変面白かった。去勢した山羊の睾丸を人間が捨てずに食べるのには驚いた。（NO.17）
■ 日本と違った環境の事情を理解するのに役立つ。（NO.20）
■ 編入学して奈良女を卒業した者ですが、窓から見える東大寺と若草山、この風景があたり前だった四年間がどんなに恵まれた人生の一時であったかを改めて感じました。教室に行けば先生が授業をして下さる、相手をして下さる、その事がどれだけ有難い状態であるか... どうか悔いの無い学生時代をすごして下さい。（NO.23）

奈良女子大学人間文化研究科「魅力ある大学院教育」イニシアティブ
生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成（文部科学省採択教育プログラム）

2006年度「研究プロジェクト演習」報告会

公開セミナー「モンゴル民族の暮らし」
2006年10月29日（日）

2006年12月14日

スケジュール

■セミナー開催に至るまで

4月14日	第1回企画会議	受講生の確認、ガイダンス
5月12日	第2回企画会議	企画テーマ案について
5月13日	受講生会議	企画テーマの選定
6月7日	第3回企画会議	テーマの詳細・開催時期について
6～7月	各担当者	講演者の依頼・広報活動下準備
7月28日	第4回企画会議	講演者・広報について、事務手続きの確認
8月	各担当者	講演者との連絡・事務手続き
9月5日	第5回企画会議	セミナー開催日・広報・参加申し込について
9月	各担当者	ポスター作成・当日アンケート案の作成
9月27日	第6回企画会議	準備状況・ポスター・アンケートについて
10月	各担当者	案内状の作成・案内郵送
10月25日	第7回企画会議	セミナー当日の最終確認
10月	各担当者	ポスター掲示・案内状配布
10月28日	受講生会議	当日の役割確認

2

セミナー企画①

■テーマの決定

決定テーマ：モンゴル民族の暮らし

論点

①講演内容を重視し、受講生の研究の参照になるようなテーマ

②研究者としての姿勢やネットワーク等を重視し、若手研究者との交流が行えるテーマ

③「公開講座」であることを重視し、地域の方々が参加しやすいテーマ

受講生自身の研究に寄与するという点を重視し、
海外研究の手法等も学べるテーマとした。受講生5人の研究分野を配慮し、
「生活」「家族」「女性」「子ども」というキーワードを設けた。

3

セミナー企画②

■講演者の決定

決定講演者：小長谷有紀　氏　（国立民族学博物館教授）
ヤル　（院生からの話題提供）

論点

①院生全員の研究テーマに即した総合的な研究をされている方

②関西圏で活動されている方

③日本の研究者およびモンゴル民族の研究者の方

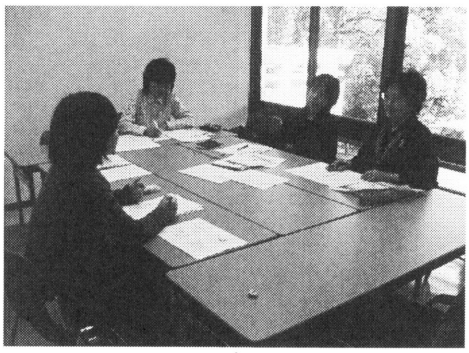
総合的な研究をされている方として、数多くの著書と精力的な活動をされている小長谷先生への依頼が決定した。
文学部武藤教授を通じてアポイントメントを取ることができた。

4

企画会議の様子

5

企画会議の様子



6

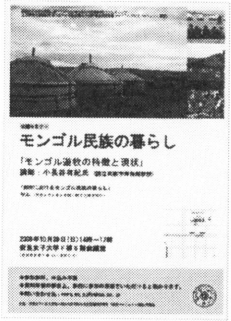
広報活動①

■学内広報

・ポスターの作成、掲示

学務課掲示板、大学本部、学生会館
→各担当部署に掲示を依頼
その他学内各所に掲示

・メールボックスへ案内配布



7

広報活動②

■学外広報

・「魅力ある大学院教育」イニシアティブ（人社系）
平成１７年度採択プログラム実施専攻への郵送による案内

・新聞各社へのプレスリリース

・公民館への案内

・大学掲示板（正門）へのポスター掲示

・大学ホームページへの掲載

8

広報活動③

■「魅力ある大学院教育」イニシアティブ（人社系）
平成１７年度採択大学への郵送による案内　34通

教育プログラム名	大学名	専攻等名
a001 人類の福祉が繁栄のための教育的拠点	北海道大学	大学院医科大学システム科学専攻
a002 学生主導型の研究マネジメント力養成	北海道大学	工学研究科工学応用工学専攻
a003 高度研究者・高度教育者養成プログラム	東北大学	大学院医科高度科学専攻
a004 大学・企業ジョイントプログラムの開発と実践	秋田大学	工学資源学研究科経営システム科学専攻、企業科学
a005 「人間の安全保障」プログラムの実践化	東京大学	総合文化研究科国際社会科学専攻
a006 多言語社会・言語文化多様性教育研究拠点養成	東京外国語大学	地域文化研究科言語・コミュニケーション専攻、地域文化専攻
a007 対話と交流による共生社会リーダーの育成	お茶の水女子大学	人間文化研究科国際社会開発専攻、人文学専攻
a008 日韓文化資源学研究教育連携プログラム	一橋大学	言語研究科言語学、国際関係専攻
a009 高度な、国際性と最先端研究養成システム	横浜国立大学	国際社会科学研究科経営学専攻、企業システム専攻
a010 総合日本文化研究高度人材養成プログラム	総合研究大学院大学	文化科学研究科国際日本研究専攻
a011 チーム参加型プログラムによる教育の高度化	名古屋大学	医学系研究科医療技術学専攻
a012 高度な研究者養成と社会人教育	名古屋大学	工学研究科総合工学専攻
a013 国際通用性の高い社会科学系研究者の育成	名古屋大学	国際開発研究科国際開発専攻
a014 情報、実践知を担いうる新専門家の研究者養成	京都大学	情報学研究科情報学専攻
a015 「ソーシャルネットワーク」型大学教育の構築	大阪大学	大学院文学研究科言語文化専攻
a016 「実践的研究者」養成をめざす人間行動科学	大阪大学	人間行動学研究科人間行動学専攻
a017 社会構成員を担う研究者養成のための教育改革	大阪大学	経済学研究科経済学専攻
a018 国際大学に見合う次世代政治学研究者養成計画	神戸大学	法学研究科政治学専攻
a019 教育機関と学生のPartnership	神戸大学	経済学研究科社会経済教育専攻
a020 経営学研究者養成のための国際教育システム	神戸大学	経営学研究科マネジメントシステム専攻
a021 国際交流と地域連携を統合した大学教育	神戸大学	文化学研究科社会文化専攻
a022 国際政策学研究者養成に向けた大学院教育	神戸大学	国際協力研究科国際開発政策専攻
a024 国際協力学を核に実践的研究者養成の試み	広島大学	国際協力研究科開発科学専攻
a025 人間と研究対象のパートナーシップ形成	鳥取環境大学	大学院研究科学、環境学専攻
a026 複雑社会のガバナンスを支援する研究者養成	鳥取環境大学	政策メディア研究科政策・メディア専攻
a027 総合文化学部等と西欧の国際連携システム	福岡女子大学	教育学研究科教育科学専攻
a028 現代世界に貢献する地域研究	上智大学	外国語学研究科地域研究専攻
a029 神戸可能な未来へのフューチャーワークショップ	立教大学	異文化コミュニケーション研究科異文化コミュニケー
a030 国際社会研究の新たな創成	早稲田大学	社会学研究科社会学専攻
a031 海外調査プロジェクトの実践的展開	早稲田大学	アジア太平洋研究科国際開発学専攻
a032 国際学術情報ネットと実践的研究者の育成	日本女子大学	国際社会開発研究科国際社会開発専攻
a033 ソーシャル・イノベーション研究コース	同志社大学	総合政策科学研究科総合政策科学専攻
a034 プロジェクト型職業コーチ人材育成養成	立教大学	大学院社会学部社会福祉社会学部専攻
a035 電子ネット新し実践する公共行政学教育	関西学院大学	大学院研究科公共政策専攻

9

広報活動④

■新聞各社へのプレスリリース

・奈良新聞編集部
・朝日新聞奈良総局
・毎日新聞奈良支局
・読売新聞奈良支局
・産経新聞奈良支局

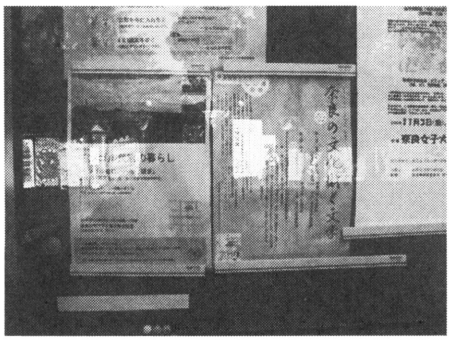
→10月20日（金）
奈良新聞地域のページ
催しラインナップに掲載

◆公開セミナー「モンゴル民族の暮らし―モンゴル遊牧の特徴と現状」
29日14時　奈良市北魚屋西町の奈良女子大学。講師は国立民族学博物館教授の小長谷有紀さん。参加無料。申し込み不要。同大学大学院人間文化研究科社会環境学専攻「研究プロジェクト演習」受講生のノムラさん、電話[redacted]。

10

広報活動⑤

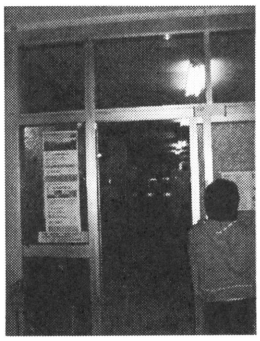
■正門前掲示板



11

広報活動⑥

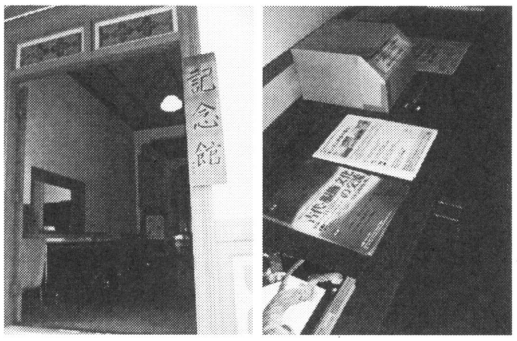
■学内掲示板・ロッカールーム前



12

広報活動⑦

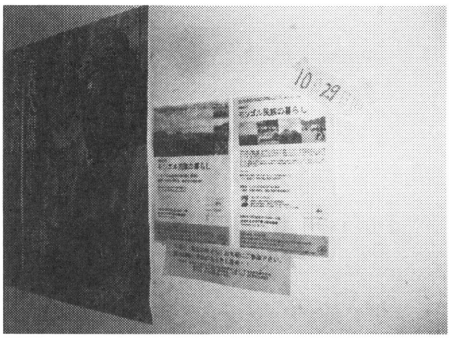
■記念館一般公開での設置



13

広報活動⑧

■廊下



14

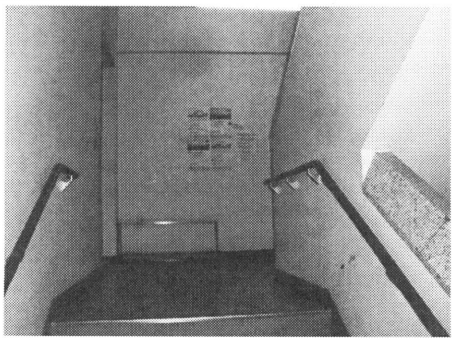
広報活動⑨

■階段踊り場１

15

広報活動⑩

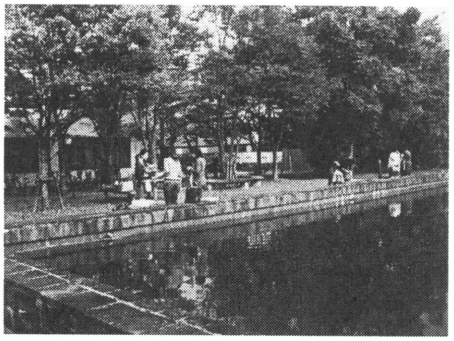
■階段踊り場２



16

広報活動⑪

■チラシ配布の様子



17

当日の様子①

■当日の流れ

AM8:00～AM10:00	誘導看板設置
AM9:00～AM10:30	セミナー会場設営
AM10:30～AM11:00	リハーサル
PM12:30～PM1:00	最終確認
PM1:00～	講演者との打ち合わせ
PM1:30～	受付開始
PM2:00～PM5:00	セミナー開催
PM5:00～PM5:40	講演者との懇談
PM5:00～PM6:30	後片付け

18

当日の様子②

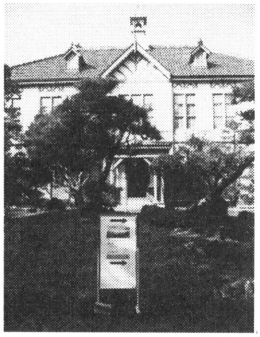
■当日の役割分担

小長谷先生控室担当 （提出書類・お茶の準備）	野村・ヤル
受付担当	奥山・田中
司会	田中
モンゴル紹介	ヤル
ビデオ・カメラ	神戸
質問時のマイク	奥山
最後の挨拶	野村

19

当日の様子③

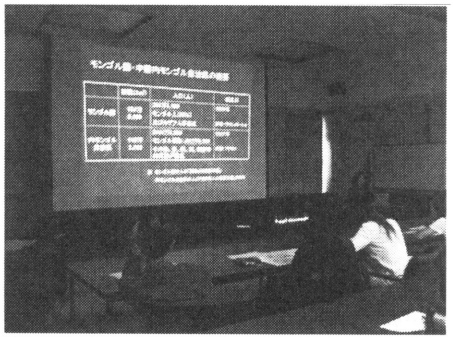
■案内掲示



20

当日の様子④

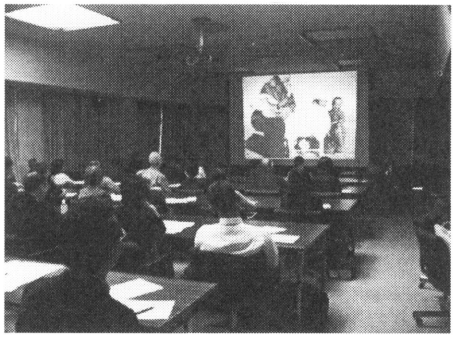
■セミナーの様子



21

当日の様子④

■セミナーの様子



22

当日の様子⑤

■セミナーの様子

23

当日の様子⑥

■セミナーの様子

24

来場者アンケート①

■回答者　24人

■回答者の属性

1）学外からの参加者　14人
　　学内の参加者　　10人

2）学　生　12人　→　内訳：学部生6人、院生5人、不明1人
　　教　員　1人
　　職　員　0人
　　その他　9人
　　不　明　2人

25

来場者アンケート②

■セミナー情報の入手〔複数回答〕

学内参加者（回答者数10）

1．掲示物をみて　4人
2．知人の誘い　1人
3．学内ML　2人
4．大学HP　0人
5．研究室　4人
6．新聞　0人
7．その他　1人

学外参加者（回答者数14）

1．掲示物をみて　1人
2．知人の誘い　6人
3．大学HP　3人
4．新聞　0人
5．郵送による案内状　0人
6．その他　4人

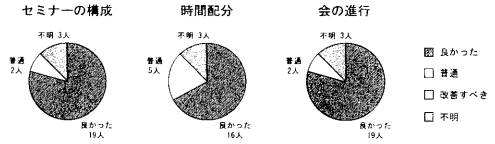
■参加の動機（回答者数10）〔複数回答〕

1．内容に関心があった　18人
2．講師に関心があった　5人
3．学生が企画するセミナーに関心があった　3人

26

来場者アンケート③

■セミナー評価（回答者数24）



■今後の参加希望（回答者数24）

1．積極的に参加したい　9人
2．参加したい　13人
3．参加予定はない　0人
　　不明　2人

27

講演内容報告・感想

講演内容報告
■学生からの報告に関して

■小長谷先生講演内容の概要

受講生感想
■講演内容に関して

■セミナーの企画・運営に関して

まとめ
■先生からのコメント

■意見交換

28

2006年度「研究プロジェクト演習」報告会